

【世界史探究】

山川出版社「詳説 世界史 世界史探究」P.220～221 イギリスの優位と欧米国民国家の形成
(ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変容)
国民国家と近代市民社会の形成は、欧米諸国においてどのように進んだのだろうか。

～ClassPad.net のファイルふせん・手描き機能を活用する～

ウィーン会議による国家・領土の変遷を理解する授業
主要国それぞれの思惑を踏まえながら、獲得領土を確認する。

【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：ウィーン会議前後の複雑な国家・領土変遷を議論の体験を通して記憶に定着させ、その後の歴史地図の土台を作り上げる。

生徒向けの目標：ウィーン会議でそれぞれの主要国がどのような目的を持って動いていたかを理解し、論理的にウィーン条約の内容を説明できるようになる。

【ClassPad.net 活用によるメリット】

- ・ **授業準備の時短・効率化**：事前にデジタルノートへ地図・役割分担カードを入れておくことで、配布時間が促進される。
- ・ **生徒の理解促進**：人物の肖像画をまとめてみるのが可能となり、映像記憶としても定着が促進される。
- ・ **プリント削減**：役割分担や地図をデジタルノートやふせんで送信することで物量が削減できる。

授業の流れ

ClassPad.net での操作

step1

【本日の授業の目標】

- ① ウィーン会議の目的と勢力均衡、正統主義を理解する。
- ② 1814年にウィーン会議の参加国代表になったつもりで、それぞれの目的を達成するために領土交渉を行う。

概要の説明

ナポレオン戦争後のヨーロッパ再編めぐり、列強が勢力均衡と正統主義を掲げて交渉したのがウィーン会議であることを示し、本時では代表になりきり領土交渉を行うと説明する。

step2

【ウィーン会議開催の流れと各国の立場】

- フランス革命開始 (1789年7月14日)
 - ・・・バスティユ牢獄襲撃、自由主義の嵐が吹く
 - ナポレオン戦争の勃発 (1796年8月)
 - ・・・フランスVSオーストリアもイタリヤ領土
 - ↓
 - ナポレオンによるヨーロッパ支配
 - フランス勢力の拡大
 - フランスVSロシア
 - フランスVSオーストリア
 - ライプツィヒ条約締結 → 神聖ローマ帝国消滅
 - ナポレオンがヨーロッパを支配
 - 大陸封鎖の発令 → 大英連合にイギリスとの通商・通関イギリスへの寄港を禁止
- ロシア連年の失敗
- ↓

基礎的な事項の確認

会議の主要参加国、メッテルニヒ・タレーランらの人物、正統主義・補償・勢力均衡の三原則を確認し、各国の立場が対立していた構造を理解させる。

リンクふせんやファイルふせん、教科書や資料集などを活用し、代表的な参加者や、国名、国旗などを画像で生徒に提示する。

また、EX-word ふせんを使用して、用語の解説もあわせて行う。

※Ex-word 機能は有償になります。別途ご購入いただくことでこの機能はご利用いただけます。

step3

【主な領土交渉の対象地域】

- ポーランド
- ネーデルラント
- イタリア北部（ロンバルディア、ヴェネツィア）
- オランダ領植民地（セイロン島、ケープ植民地）
- マルタ島
- ドイツ諸領邦

地図・役割の共有

1814年時点のヨーロッパ地図を用い、ポーランド・ネーデルラント・イタリア北部・オランダ領植民地などが交渉対象となる地域であることを位置関係とともに把握させる。

地図と役割は事前にファイルふせんやテキストふせんにしておき、授業支援機能を利用して生徒に送信する。この際必ず会議前の地図を送る。

step4

【フランス代表カード】

ブルボン王朝は正統である。革命政府の軍を相手に、フランスを連年に弱体化させるのは不詳。

優先要求

「欧陸圏でありながら大國として扱われる」

具体的要求

- 1792年国境の維持
- 過度な領土削減の回避
- 革命以前のブルボン王朝を復活させる。

グループワーク①

複数のグループを作らせ、教師は各グループの構成員それぞれに担当国家を提示する。まずはグループ員各自の最優先要求を提示し、利害の衝突する論点や、妥協の可能性をまとめさせる。

各国の最優先目標が書かれたテキストふせんを電子黒板やプロジェクター等で投影し、全体に提示する。生徒には、手書き機能を利用して、step3で共有されたファイルふせんに、議論の対象になりそうな地域に印をつけさせる。

step5

【ウィーン議定書の作成】

●会議の経過や、争点となったテーマ、それぞれが出した譲歩案などをテキストふせんにまとめる。

●最終的におおむね合意に至った条件をテキストふせんにとめ、各国の領土を手書きで白地図に書き込む。

●結果を先生に提出する。

グループワーク②

step4でまとめた論点や妥協の可能性をもとに、正統主義や勢力均衡を意識しながら譲歩案を交換し、それぞれの領土を確定する。

グループの議論の結果を、地図に手書き機能でファイルふせんに書き込み、グループの代表者に授業支援機能で送信させ、同時編集機能でグループ員全員に確認し合わせる。グループ内おおむね合意に至った領土交渉の結果を教員に課題として提出してもらう。

step6

【各班のウィーン議定書の発表】

●どのような争点かどの国で議論になったかを含めながら、各班オリジナルのウィーン議定書を発表する。

●史実のウィーン体制と比較する。

内容共有・答え合わせ

各班の確定した領土を発表させ、史実のウィーン体制と比較して評価する。なぜその結果になったのかを振り返り、会議の歴史的意義を整理する。

課題の提出状況一覧画面を電子黒板やプロジェクター等で投影しながら解説しつつ、特徴的な点や、具体的にその領土変遷によってどの国にどんな利害がもたらされるか、クラス全体で講評を行う。

step7

【宿題】

もしこの人物、国家が関与しなかったら、会議の結果はどのように変わっていたかを考え、テキストふせんで提出する。

まとめ・宿題

授業内で取り上げた領土変遷のうち、特に入試で出題頻度の高い重要な地域や、新たに出現した国名など、簡単な振り返りを行う。

最後に「もしこの人物がいなかったら、会議の結果はどのように変わっていたか」をテキストふせんで提出させ、クラスに共有する。

宿題は、内容が記載されたフォーマットをWord等を利用して作成しておき、ファイルふせんにして、授業支援機能を用いて生徒に送信する。

step8

【参考・補足】

ウィーン会議後のヨーロッパ地図と現在のヨーロッパ地図を比較し、共通点や相違点を見出す。

参考・補足

ウィーン会議後のヨーロッパ地図と現在のヨーロッパ地図を比較し、共通点や相違点を見出す。会議の様子を描いた絵画を生徒たちに提示する。

ウィーン会議後と現在のヨーロッパ地図二つをファイルふせんで送信し、タブ切り替えて見比べさせる。手書き機能で共通点や相違点を間違い探しの感覚で印をつけさせる。